いま、ここから、あるきだす。

旅立ち HIKIKOMORI KHJ NEWS

特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会
代表 伊藤正俊・中垣内正和
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 3-16-12-301 TEL：03-5944-5250 FAX：03-5944-5290
http://www.khj-h.com
facebook:http://www.facebook.com/khj.ho twitter:http://twitter.com/hikikomori_khj

第82号 発行日 平成28年9月30日㈮

1面 ▼ 第11回全国大会 in 山形・大会宣言
2面 ▼ 基調報告（1面から）・シンポジウム
3面 ▼ 支部長会議・支部活動報告
4面 ▼ 全国KHJ支部案内

9月18日 第11回 KHJ全国大会 in 山形

誰もが希望を持てる社会を目指して（山形市米沢）

9月18日・19日山形県米沢市の伝国の杜・置賜総合文化センターにて、第11回KHJ全国大会が開催されました。全国から約200名の方が参加し、大変意義のある大会となりました。始めに開会行事として、主催者及び来賓の方々からのご挨拶がありました。以下、開会挨拶を一部紹介します。

●KHJ全国ひきこもり家族会連合会 名誉会長 池田佳世「このような素晴らしい会場で全国大会を開催することができ本当に感謝しております。日本の若者のためにも、ひきこもり家族会がさらに発展していって頂きたいと願っております」

●KHJ全国ひきこもり家族会連合会理事長 伊藤正俊「全ての人が自由と平等を保障され、安心して生活できる社会を作ることを目指して、全国各地の支部がそれぞれの地域でひきこもりの支援をしています。今大会が希望を感じる大会になれば良いと強く念じ挨拶とさせて頂きます」

●山形県知事 吉村美栄子氏（代読 置賜総合支庁長 武田一夫氏）「本県でも、〈自立支援センターすだち〉や各保健所で相談受付を行うなど、ひきこもりに悩む方への心のケアに努めております。また、県内に若者相談支援拠点を設置しており、家族会や支援者の皆様にも、若者とその家族の相談に対応して頂くなど、多大なるご協力ご尽力を賜り、心より感謝申し上げます」

●参議院議員 山本博司氏「2007年に国会議員となって以来、一貫してこのひきこもり支援のことを訴えさせて頂きました。今では数々の施策も行われ、本当にひとつひとつ皆様と一緒に進めさせて頂いた思いです。これからの支援はいかに国・県・市町村という形で取り組んでいくかが大事になってくると思われます。そのなかで、家族会の方々の役割はこれからさらに広がってくると確信をしております」

●米沢市長 中川勝氏「何らかの理由でひきこもらざるを得なかった方が少しでも社会に出て、そして、一体となってこの地域社会を形成することができるような支援の在り方についてしっかりと取り組んで行かなければならないと思っております。米沢市の行政を預かる者として、ひきこもり対策に国や県、市でどのように連携をしていくかという宿題を頂いていると思っております」

第11回 KHJ全国大会 in 山形 大会宣言

私たちは、第11回KHJ全国大会in山形において以下の事項を宣言する。

1. 私たちは、ひきこもり当事者（本人及び親、兄弟姉妹等の家族）が幸せに生きていくために、継続して創意工夫をこらして活動することを決意する。
2. 私たちは、全国組織を有する唯一のひきこもり当事者団体「ひきこもり家族会」として全国の市町村単位・地域単位にまで活動が広がることを目指す。
3. 私たちは、ひきこもっている本人と家族が安心して暮らしていくために、人と人とのつながりの回復に向けて進んでいく地域社会を目指す。
4. 私たちは、ひきこもりを経験した次代の若者たちの意見を尊重し、彼らが主体性を持って生きるための資源を共に作っていく。
5. 私たちは、ひきこもり支援の年齢枠が撤廃されることを求める。
6. 私たちは、以上の項目を幅広く産・官・民・学協動することによって、安心して暮らせる共生社会が実現されることを目指す。

平成28年9月18日

特定非営利活動法人
KHJ全国ひきこもり家族会連合会
共同代表 伊藤 正俊
共同代表 中垣内 正和

KHJ新理事長 伊藤正俊、中垣内正和 両氏

KHJ全国ひきこもり家族会連合会は、6月26日に、平成28年度の通常総会を開催。ひきこもり家族会の全国組織として、当団体に期待される役割の増大と本部業務の拡大に伴い、理事長の、共同代表の体制が提案され、理事長を2名体制とし、伊藤正俊（NPO法人からころセンター理事長）、中垣内正和（ながおか心のクリニック院長）が選出され承認された。

今後は、伊藤理事長が最終決裁権を持つと共に、主に地域福祉、行政連携などを行い、中垣内理事長が医療の専門家として、医療界への働きかけ、医療と家族会とを結ぶ役割、ひきこもり予防等の研究によってひきこもり研究を学際的に広げる役割等を担うことで、全国の支部活性化や本部事業の改革と共に、ひきこもり家族会に広く貢献できる体制を整えてまいります。

新理事長挨拶 伊藤正俊

私は不登校、ひきこもりの問題は、個人の問題だけではなく社会の問題でもあると考えています。KHJは現在、全国に60支部あります。これは大きな力になります。故奥山雅久氏が苦労してKHJを発足させ、氏から代表を引き継いだ池田佳世 前理事長が、社会連携のひとつのモデルとして、厚労省の事業を受けるなど、さまざまな事業展開をおこなってきました。そしてKHJは11年目になり、中垣内と私が池田から代表を引き継ぐことになりました。

私は、これからは地方の時代だと考えていて、地方がそれぞれに自立した活動をしていかないといけないのではないかと考えています。手作りでよい、急がなくてよい。地に足をつけて、地域の人々と繋がり、社会と繋がりながら、ひとつひとつ、ひきこもり問題を考えていく。そんなふうになっていきたいと思っています。

各支部がそれぞれの地域で力を出し、知恵を出し、同時に全国のみなさんと手を取り合いながら、この社会をどう変えていくか、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

新理事長挨拶 中垣内正和

KHJはひきこもり対応を行う唯一の全国組織ですが、伊藤が福祉の観点から、私が医療と研究の観点から「共同代表」を行う形で、このほど理事長をお受けいたしました。

昨年度取り組んだ「ひきこもり支援ガイドブック」に示されましたように、KHJは多様な分野の総意に基づく「協動体」としてその実効性を発揮してきました。私は「ひきこもり外来」において400名近い若いひとたちとその家族に出会い、多くの、20年以上の長期高年齢化の方とも話し合ってまいりました。クリニック開業以降は10代の不登校からひきこもりへの移行予防の対応を加え、大きな手ごたえを感じております。

ひきこもりの問題は、親世代子世代がともに主体的に協働するものであり、「ひきこもりを生む社会日本」の新たなありかたを模索して提案していくものと考えております。ともに手を携えてどうぞよろしくお願いいたします。

基調講演「不登校やいじめ、ひきこもりのない社会をめざして」

講師 森田 洋司（「不登校問題に関する調査研究協力者会議」座長）

森田 洋司氏

いじめや不登校は、ひきこもりの前段階としても位置づけられる大きな課題です。

いじめについては、社会通念と法律との間に定義のずれがあり、法律上の定義の方が広いので、何がいじめにあたるかについて学校現場で判断の差がみられます。

現実には「いじめはどこでも起こりうる」段階を過ぎ、「すでにどこでも起こっている」のです。これまではいじめの被害の深刻さや動機が注目されてきましたが、いじめを「人間関係の中での影響力の乱用」と広く捉え直す必要があります。影響力の差は社会につきものですから、実はどこにでもいじめは存在します。いじめは子供達だけの問題ではなく、大人の側が、どれだけ自分達の問題として捉えられるかが重要です。

これは不登校やひきこもりについても言えることです。こうした見方をすることで社会の自律性を育てることができます。自律性が確保されることで、誰もが安心して社会参加し自己実現をめざすことができるのです。

不登校には様々な要因がからまり、どれが原因かは容易にはわかりません。そこには子供自身が引き受けられないものも混じっており、本人や家族だけの問題として狭く捉えることはできません。無理して登校しなくてもよいような居場所や雰囲気づくりが一番大事です。原因探しはほどほどにして、「あるがままのあなたが素晴らしい」と肯定することで、社会参加への資質を備えさせることができます。学校には、特に初期段階に着目して、不登校児童ひとりひとりのニーズに沿ったアセスメントチームを組んでの支援をお願いしています。

日本の子供達には自己肯定感の低さが目立ちます。「減点社会」の影響が大きいと思われます。問題点を指摘して指導するようなやり方が一般的ですが、成果を過剰に問う社会では自己肯定感は育ちません。子供のよいところやできたことに注目してほめる「加点社会」への転換が必要です。

ひきこもりとは、不登校から、学校と社会との間のクレバスにはまり込んで、そのまま社会参加ができずにいる人たちだと考えています。そこにどのように橋をかけるかがひきこもり支援のポイントです。今後の学校の課題として地域との連携・相互支援が挙げられます。ひきこもり支援も社会全体で関わっていくことが大切です。

基調報告「地域におけるひきこもり支援」

講師　境 泉洋（徳島大学大学院准教授）

基調報告では徳島大学大学院総合科学研究部准教授、境泉洋先生の「地域におけるひきこもり支援」と題した報告がありました。

報告では昨年KHJが作成した「地域におけるひきこもり支援ガイドブック」制作の経緯を、先生ご自身のひきこもりとの出会いを含めてお話ししていただき、また昨今のひきこもりの現状を、KHJの歴史も含めての報告がありました。

まず今に至るひきこもり支援業界の歴史をいくつかの「流れ」に分類。はじめに「社会の流れ」ではひきこもりの歴史を第0期から第3期までに区切り、2000年前後に起きた「京都小学生殺害」「新潟少女監禁」「佐賀バスジャック」の3つの事件が世間がひきこもりに注目するきっかけを作ったとされ、これを第1期とされ、その後、精神保健福祉活動の対象となる第2期を経て、2010年からを精神科医療における位置付けの明確化の第3期に至っているとされました。

「KHJの流れ」では立ち上げから停滞期を経て現在躍進期に至っているとし、昨年KHJで行った「ひきこもり大学」や「居場所づくり事業」を紹介していただきました。ひきこもり大学ではその参加者の3割が当事者であることが興味深いポイントであるとのご指摘でした。

そして「私の流れ」ではCRAFTを用いた認知行動療法の可能性を語っていただきました。その中で当事者に必要なのは、物事を悪いほうに考え続けるネガティブ感情の悪循環から、逆のポジティブ感情の良循環へ変換していくことが必要で「行動すること」が大切だということ。また行動するために「わくわくポイント（自分にとって重要なこと、義務感からではなく自分に大切なことなど）」を見つけて行動するなど、先生の長年の蓄積から出てきた、英知を披露していただきました。

シンポジウム「それぞれの現場から考える」

当事者、家族、ジャーナリスト、行政、それぞれの立場からの気づきや思い、現状の課題が語られ、またこれからの地域づくりにおける活発な議論が行われた。

司会進行は牟田武生氏（NPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会監事）

当事者の立場から

大矢哲裕さん（ながおか心のクリニック事業主任）

～ひきこもる必要はあったが、ひきこもり続ける必要はない～

大学生だった2001年から7年間ひきこもり、回復に同じ歳月を費やしました。

生きている実感がないまま、ひとりで抱えこみ、心も身体も疲れ切っていたので、ひきこもる必要がありました。あのまま動き続けていたら、今の自分はいなかったと思います。医療機関、居場所の利用、地域参加活動、資格取得など様々な経験が回復へとつながりました。

同じ経験を持つ人と語り、聴くことを通じて自分自身の経験を振り返り、心の整理がつきました。与えられたチャンスを逃さず流れに乗り、できることも、できないこともありましたが、頼れる人、理解者がいたから、何とかやっていけたと思います。回復のきっかけは、「ひきこもり続ける」から、「できることを続ける」と考えが変わったことだと思います。これから先もっと辛いことがあるかもしれませんが、ひきこもっていた経験を力にして克服できると思っています。

家族の立場から

佐々木由佳さん（発達支援研究センター若者支援員）

～学校に行かないことを悪いことだと思わない世の中に～

息子は中1から体調を崩し不登校気味になりました。母子間での葛藤、夫から理解を得られていなかったショックもあり、過敏性腸症候群により高校中退となった時は、手続きをすべて父親に任せました。父親の役割を理解してほしいという思いからでした。

通信制の高校に籍を置いてからは、本人の話を聞き、本音でぶつかり合いました。お互いの思いをある程度吐き出した後は、家の中での悪循環を避けて、自分がまず外に出て楽しみました。

人生楽しいよを自分が実践し、息子がそれをどう思うかは本人が決めると思い、言葉よりも行動で伝えました。本人はアニメやゲームなど自分の好きな事をしながら、家事を手伝ってくれました。何かを決めるときは、今一番楽にできる事を考え話し合いました。

今思うことは、学校に行かないことを悪いことだと思わない世の中になってほしいということ。そのためには、学校に行っていない本人や家族も、悪いことだと思わないことなのかもしれないです。違う道を選んだ、それはとても大変だと思いますが、父親もようやくその大変さを理解してくれています。人生どうなるかわからないから、今を楽して楽しく生きるでいいかなと私は思っています。

行政の立場から考える

日野 徹さん（厚労省社会・援護局地域福祉課 課長補佐）

～地域共生社会の実現に向けて～

厚労省は、人がお腹にいる段階から高齢者までその人の人生に関わる役所であり、年齢に関わりなく、ひとりひとりの生き方と向き合うのがひきこもり施策であると考えています。

ピントを合わせるのは、当事者であり家族です。本人の意欲、状況に合わせた多様な支援が必要です。ひきこもり地域支援センターは全国64自治体に設置され地方自治体への理解も進みました。平成27年から施行された生活困窮者自立支援法では、自己選択、自己決定を基本に、本人の尊厳に配慮した相談を行っています。就労準備支援では、生活訓練や中間的就労なども含め柔軟に応じています。実施率は4割程度ですが、今後も実施箇所を増やしていきます。今後の取り組みとして、ニッポン一億総活躍プランの提唱と共に、省内でも「わがごと、まるごと、地域共生社会」実現本部ができ、日本の原風景を取り戻そうと都市部、山間部、いろんな実情がある。地域の人たちが主体的に自分の暮らす地域を作っていけるよう、バックアップしていきたいと思います」

今後の地域づくりに向けた問題提起

～シンポジストから～

佐々木さん

「近所の人には、聞かれる前に私の方から息子のことを伝えました。その方が息子が外で挨拶しやすいと思いました。また自分が疲れすぎないように、会いたくない人には、無理に会わないと決めました」

大矢さん

「偏見を持っていたのは自分で、向こうはこちらを求めていました。床屋などで自分の所属を聞かれると困り、休職中ですと答えたりしていました。地域の中で孤立している人への関わり方がこれからの課題です。地域資源を見つけて、できることからやってみることが大切だと思います」

池上さん

「いろんな人がいていい、横並びじゃなくても、完璧にやらなくてもいいという安心感や、多様な人がいて、こんな生き方もあっていいと思えることが意識改革になっていきます。各地域で当事者と一緒にこれからの未来を考えていきたいです」

日野さん

「地域づくりについては、地域づくりに力を入れています。わがごとというのは、ひきこもりを含めた地域課題を自分のことのように考えていこうという姿勢、まるごとというのは、様々な世帯が抱える相談をまるごと受けられる包括的な支援体制を作ろうというものです。当事者の声、地域の声を大事にしながら、行政は下から支えます。恩師から受け継いだ、「～しかできないではなく、～ならできる」という考え方、「自分が変わることによって未来が変えられる」という意識を持って実行していきたいと思っています。

森田先生

「地域ぐるみという意識は、厚労省も文科省も同じ。いじめ問題も、傍観者で他人事という意識を修正することからでした。互いにひとつの社会を作っていくという意識の成熟が必要。排除ではなく包摂。でこぼこなりに、いろんな資質能力を持っている。

でこでもいい、ぼこでもいい、その人なりのプロセスを理解し関わりを持てる共生社会を作り上げていくために、あなたはあなたで生きていていい、生きてるだけで値打ちがあるという意識（現存在肯定）が大切であると思います」

ジャーナリストの立場から

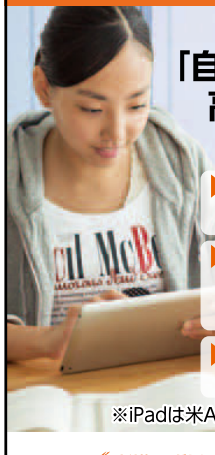
池上正樹さん（ジャーナリスト）

～大事なのは当事者ファースト～

「ひきこもり大学」は、当事者が自らの意志で、主体的に自らの経験や思いを社会に発信する場です。当事者たちは、ひきこもることの意味を世の中に問いかけています。行政も当事者が発する声を聞いてほしいと思います。

ひきこもりの高齢化（50、80問題）が進む中で、内閣府の若者の生活に関する調査（ひきこもり調査）は、15歳～39歳までを対象としており、40代以上の実態を考慮していないものと言えると思います。社会をどう作っていくかを当事者から学ぶという姿勢が問われています。

不登校・ひきこもりの方も安心



第一学院高校は、「自宅通信学習」で高校卒業できる学校です。

- iPad® miniを使って学習（無償貸与）。
- 自宅学習と年1回のスクーリングで高校卒業。
- メンタル面・進路面のサポートも充実。

※iPadは米Apple Inc.の登録商標です。

通信制高校（広域通信・単位制）

生徒第一…だから 第一学院高等学校

TEL 0120-761-080 www.daiichigakuin.ed.jp

全国50キャンパス（平成27年4月時点）

特定非営利活動法人から・ころセンター

不登校やひきこもりで悩んでいるご本人とご家族の方々に寄り添う活動をしています。
生涯にわたる支援ネットワークの構築を目指しています。

★から・ころセンター　代表　伊藤正俊
〒992-0026 山形県米沢市東2丁目8-116
TEL:0238-21-6436　FAX:0238-27-1303
E-mail:info@npo-karakoro.com

就労継続支援B型事業所

★ワークから・ころ
〒992-1127 米沢市万世町牛森4150-6
青空みるくセンター2F
TEL:0238-40-8457　FAX:0238-40-8458

★キッチンから・ころ
〒992-1128 山形県米沢市八幡原5丁目4149-8
テクノセンター内
TEL・FAX:0238-28-2527

を削除してください。

家族会の取組み　NPO法人なでしこの会（愛知）「親の語ろう会」について

親の語ろう会は、平成23年6月からFSN（フレンドシップなでしこ）で、毎週（木）14時～16時に開催しています。メンバーは、役員・運営委員・スタッフの8名で担当日別に開催しています。

来所状況：

開所して、5年2ヶ月が経ちました。H23年度は26人（男性4人）・H24年度は54人（男性14人）・H25年度は59人（男性6人）・H26年度は34人（男性7人 当事者1人）・H27年度は64名（男性17名）の方々が来所されました。平成28年度は7月末現在で41名（男性8人）の方々が来所されました。親御さんが1～2名で多い時は5名。

定期的に来られる方、ご夫婦で来られる方もおられます。最近は男性の方も増えてきています。又、「生活困窮者自立支援事業」立ち上げの関係で、「ひきこもり」を学ぶために、社会福祉協議会や保健所の家族教室の方が、団体で見学に見えました。

内容：

初対面の人には、自己紹介、なでしこの会の紹介、月例会の話、会員加入への要請などをしています。当事者の状況、親御さんの状況等を傾聴しています（同じ体験者として、ピアの関係で寄り添っていく。個人情報の保護には配慮しています）。自由に話して頂き、心に溜まっているものを吐き出してもらい、気楽になっていただく様にしています。本人と同じように家族支援も大事だと思っています。

親御さんの感想：

「色々勉強になった」、「本当に良かった、いい話を一杯聞けた」、「ここに来て話をすると心が和らぐ、外では話ができない」「ここに来て少し明るくなった」等の声が聞かれました。

スタッフとして思うこと：

「孤独感」や「偏見」に苦しむことが多い中、安心して話ができ、共感ができる。他者理解へつながり会員同士の連帯感が強まります。「伴走者で脇役」として、動きだすための、ほんの小さな一歩を探していく。親自身が、楽になる、人生を楽しむ。当事者と少し距離を持つ。親子共にコミュニケーション能力を高めていく（快話をする）。「いいとこ探し」をやっていく。「生きているだけでいい、毎日顔が見えて、一言だけでも声が聞けることの幸せを感じて欲しいと思います。

（なでしこの会　秋田 義治）

支部長会議

KHJ全国大会in東京

～親と若者の協働に向けて～

平成29年度の全国大会は、親と若者が協働し、関東ブロック合同で盛り上げてまいります。東京支部、楽の会リーラの市川さんと大橋さんが、壇上で次回大会への意気込みを語りました。

全国大会二日目に開催された支部長会議は、伊藤、中垣内、両理事長の司会により、参議院議員 山本博司氏、厚生労働省社会・援護局地域福祉課 日野徹氏にも出席していただき、25支部の出席で開催されました。参加各支部からは、自己紹介と簡単な活動状況報告、ひきこもり地域支援センターとの連携状況や、連携の有無などの報告がありました。以下、当日の内容から、日野徹氏の報告と、伊藤正俊理事長によるKHJの理念案を紹介します。

日野氏からは、ひきこもり地域支援センターが64自治体68箇所に設置され、ほぼ全県、全指定都市に設置されたことになりました、と報告がありました。また、ひきこもり地域支援センターと、生活困窮者相談窓口とが連携し、情報を共有することを通して、孤立している人や、ひきこもり状態にある人を早期に発見し、早期に対応できるようにするため、生活困窮者自立支援制度とひきこもり地域センターとの連携についてという通知が、双方の担当部署に宛てて出された、というお話もありました。

伊藤正俊理事長からは、KHJ家族会が目指すべき理念（ビジョン）として、「私たちは、誰もが夢や希望を持ち、自由と平等が保障される社会を目指し、この街でこの国で生きていてよかったと思える地域社会をつくる事に寄与できる団体を目指す」という文案が提出され、参加各支部の拍手を以て、この理念の共有が同意されました。また、トップダウンではなく、ボトムアップの組織を目指していきたい、みなさん（各支部）の意見を集約するのが自分の役目だと考えている、これからもさまざまな意見を聞かせて頂きたいとの話がありました。

新支部誕生　いわて石わりの会

8月20日、KHJいわて石わりの会が誕生。ひきこもりの当事者や家族の悩みを少しでも共有してもらおうと、盛岡市のいわて県民情報交流センター「アイーナ」で、KHJ岩手県家族会の発足講演会を開きました。

本人や家族ら約60人参加のもと、講演でKHJ名誉会長の池田佳世氏は「子の話を親は否定してはいけない。本音を語ることがひきこもり回復につながる」と訴え、また、ひきこもり問題の取材を続けるジャーナリストの池上正樹氏は「地域での居場所づくりが大切」と述べました。参加者同士が家族の状況や悩みを語り合う場も設け、長男がひきこもりという男性は「他の人に悩みを話し気が楽になった。今までは自分の愛する息子だと胸を張って紹介し、繋がりを持ちたい」と述べ、まさに家族会存立意義の込められた重い言葉だと感じました。今後、このような機会を重ね、問題解決のための絆を深めていきたいと強く感じました。

次回は、11月5日（土）13時から上田公民館で開催します。

講師は陸前高田にて息子さん奥様を津波で亡くされた佐々木先生です。（楢木）

ひきこもり大学in山形

全国大会の二日目に『ひきこもり大学』が開かれました。『ひきこもり大学』は、ひきこもり当事者・元当事者が、自由にそれぞれの思いを講義する新しい試みです。親、ひきこもり当事者・元当事者、支援者を中心に約150名と、これまでKHJが開催したひきこもり大学のなかでは最も多くの方が参加されました。

鹿間健史さん

1限目。講師 鹿間健史さん。テーマ「自分の命と自由!!希望なんてクソッタレ～」。ユーモアを交えながら、親へは「親御さんは、一度子供から離れて自分を見つめて、遊んで、人生謳歌していって欲しい」、ひきこもり当事者へは「ぜひ世間に出てみて小さいことにこだわらずに生きていって欲しい」と、メッセージを伝えてくれました。また、「希望は持たなくていい、目標も立てなくていいと思っている。楽しい方だけ選んで生きていこう」には共感の声が多く寄せられました。

林　恭子さん

2限目。講師 林恭子さん。テーマ「実践例から考える本当に必要な支援とは」。林さんの考える支援とは、就労や無理に社会に出すことではなく、ひきこもり当事者がどうやったら幸せになるかをサポートすることであり、親には「子供の人生は子供のもの」として人生はその子に託し、「腹をくくって見守る」ことを一番して欲しいと話されていました。

参加者からは「子供の面倒を見過ぎていたことに気づいた」「支援が当事者の意向と違う。当事者の声を聞くことが大切」「仕事も勉強もすべて頑張りや成果などで評価される社会、考え直さなければ」等の感想を頂きました。

「ひきこもり当事者の思いを聞けたことが良かった」という声が最も多く、全国各地で「ひきこもり大学」の開催が望まれていると感じました。

厚労省社会福祉推進事業～長期高年齢化の現状と課題を考える～

40歳以上、10年以上のひきこもり歴をもつ家族の方への聴き取り調査会を全国で実施します。

長期高年齢化の背景及び、どのようなきっかけで社会参加が進んでいるかを検討し、家族内部の人間関係に加えて、相談窓口の支援体制、社会資源の充実度などを考察します。

来年1月22日には本事業の報告及びシンポジウムを名古屋で開催し、長期高年齢化の支援策や、予防、問題解決に向けた提言に結びつけます。調査会と併せて家族支援力（ピアサポート力）のスキルアップのための事例検討会も行います。是非ご参加ください。問い合せはKHJ本部まで。

NAGAOKA KOKORO CLINIC
ながおか心のクリニック
ストレス外来・ひきこもり外来・アルコール予防外来・摂食障害外来

★KHJ長岡フェニックスの会・家族会、居場所、パティオ、テラコヤ、パソなび、NABA
★断酒ミーティング、外来そく断酒会、外来そくAA

当クリニックは、社会参加を目標にします

〒940-0082 新潟県長岡市千歳1丁目3-42
ながおか心のクリニック 中垣内 正和
TEL: 0258 38 5001
FAX: 0258 38 5002
http://nagakoko.com

山形県から・ころセンター「大人の修学旅行」開催

大人の修学旅行は、全国大会に合わせて立てられた企画で、から・ころセンターに宿泊して全国の当事者と交流しようという催しです。

今回集まったのは、当事者・経験者をメインにスタッフを含めて24名と、懇親会のあとに飛び入り参加した方もいらっしゃいました。乾杯のあと、から・ころセンターのボランティアさんが作ってくださった山形の郷土料理に一同舌鼓を打ち、ビンゴゲームで盛り上がって一次会はお開き。

近くのスーパー銭湯「鷹山の湯」で汗を流したあとは自由時間となり、親の立場の方と子の立場の当事者・経験者とが自然に混じり合って、いくつもの話し合いの輪ができていました。自身の状況についてしんみりと話す輪もあれば、親と子双方が率直に思いをぶつけ合う場も見られました。

話はいつ果てるとも知れずに、消灯時間の夜中の1時まで続きました。一部の方にはお酒の酔いも手伝って、心の底の本音を打ち明けられたよい機会になったのではないでしょうか。

ひきこもりをめぐって親と子が話し合う企画も増えてきましたが、今回の参加者は「かっちりした企画というわけでもなしに、こんなふうにざっくばらんに話し合える雰囲気はありがたい」と話していました。また、親・子双方から「自分の子（親）が相手だと、なかなかこうして素直には話せない。他人同士だからこそ、気楽に話せることもあるのです」という声も聞かれました。

KHJ俳句・川柳コーナー

・盆過ぎて　肌に涼しき　散歩かな（T）
・夕闇に　ススキ拡がる　野原かな（T）
・連休を　過ぎても　毎日日曜日（N）

【最新刊の紹介コーナー】

高齢化、長期化が話題となっている「ひきこもり」。2010年に内閣府が発表した「ひきこもり実態調査」では、男性：女性＝7：3だったが、その数にすくいきれていない女性たちが数多く存在する。存在が消されてしまった彼女たちが抱えている問題点を可視化し、当事者、親、支援者、社会がそれぞれ養うべき視点を提示する。

助成金情報コーナー

「倶進会」一般助成（事業・活動／設備・備品購入、等）
実施団体：（公財）倶進会
内容：市民、特に若年者の健全な社会的生活に必要な各種の啓もう活動や支援（事業・活動）／前記活動に必要な備品購入（設備・備品購入）等
助成金額：70万以内（事業・活動）／150万以内（設備・備品購入）
必要書類：申請書、団体概要、推薦者2名の推薦書
応募期間：2016年12月初旬～2017年1月下旬（予定・要確認）
決定発表：2017年3月末（予定・要確認）
URL：http://www.gushinkai.com/jyosei/
（公募詳細は11月下旬より公開予定）

無料（通信料は自己負担）
引きこもり電話相談
☎ 03-5944-5720
火・木　PM1:00～5:00
「楽の会リーラ」

月例会に参加して気持ちを楽にしたり情報交換しませんか

【本部事務局】〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-16-12-301（2016年7月よりKHJ本部の住所が変更となりました）
☎03-5944-5250 Fax 03-5944-5290　info@khj-h.com　☆家族会（月例会）問い合わせ先（2016年9月26日現在）

東北・北海道ブロック（11支部）

KHJ北海道「はまなす」（北郷 恵美子）
〒064-0824　札幌市中央区北四条西26丁目3-2
☎090-3890-7048　☎&Fax 011-631-0981

NPO法人岩手県青少年自立支援ｾﾝﾀｰ「ポランの広場」家族会
（泉　勝夫）〒020-0873　岩手県盛岡市松尾町19-8
☎019-605-8632　Fax 019-605-8633

KHJ青森県「アップルの会」（川村 克彦）☎090-2990-4200
〒039-1212 青森県三戸郡階上町蒼前西5-9-1634 ｻﾝﾊｳｽ内

KHJ青森県「さくらの会」（下山 洋雄）
〒030-0844　青森県青森市桂木3-25-10
☎090-8613-5561　Fax 017-723-1754

NPO法人KHJ宮城県「タオ」（武田和浩）
〒987-2183 栗原市高清水袖山62-18
FAX 0228-58-4756　☎080-3193-6715

NPO法人山形県「から・ころセンター」（伊藤 正俊）
〒992-0026 米沢市東2-8-116　☎&FAX 0238-21-6436

KHJ秋田県ばっけの会（菅原）
〒010-0201　潟上市天王字上狼縁36-130　☎090-6688-5216

KHJ福島県花ももの会（千葉 桂子）
〒960-8066 福島県矢剣町22-5　NPO法人ビーンズふくしま内
☎024-563-6255　Fax 024-563-6233

KHJi石巻まきっこの会（高橋 優麿）
〒987-0511　宮城県登米市迫町佐沼字江合一丁目3番地2
☎080-6022-4478

KHJ岩手県　石わりの会（KHJ本部）
〒170-0002　東京都豊島区巣鴨3-16-12-301
☎03-5944-5250

認定NPO法人山形県「発達支援研究センター」（髙橋 信子）
〒990-0035 山形県山形市小荷駄町2－7 SUNまち
☎023-623-6622　Fax 023-622-7003

関東ブロック（15支部）

NPO法人楽の会リーラ（市川乙允）☎&Fax 03-5944-5730
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-16-12 第二塚本ビル202

KHJ西東京「萌の会」（須賀 啓二）Fax 03-3883-2358（TELは無し）
〒121-0064 東京足立区保木間2-8-13

NPO法人KHJ埼玉けやきの会家族会（田口ゆりえ）
〒331-0805 さいたま市北区盆栽町190-3
☎&Fax 048-651-7353　☎080-3176-6674

NPO法人KHJ千葉県なの花会（藤江幹子）
〒260-0042　千葉市中央区椿森1-2-2 志村荘201
☎070-2191-4888　Fax 043-294-7629

KHJ神奈川県「虹の会」（安田賢二）☎080-2107-1171
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 12階 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ気付 No.②

NPO法人KHJとちぎベリー会（齋藤三枝子）
〒320-0032 宇都宮市昭和2-3-5
☎028-627-6200　Fax 028-627-6200

グループコスモス（瓜生　武）☎&Fax 03-3728-4488
〒145-0066 東京都大田区南雪谷2-11-5 ☎080-3255-4161

KHJ茨城県「ひばりの会」（荒井 俊）
〒271-0064 松戸市上本郷857 北松戸成川ビル3F フレンドスペース内
☎047-364-7332　Fax 047-362-4065

KHJ山梨県「桃の会」（篠原博子）
〒409-0126　山梨県上野原市コモアしおつ1-4-3
☎0554-66-4073　090-6190-8677

KHJ静岡県「いっぷく会」（上杉博美）☎&Fax 054-245-0766
〒420-0884　静岡市葵区大岩本町25-2

KHJ群馬県「はるかぜの会」（榎本 明）☎080-3727-8726
〒370-0126 伊勢崎市境下武士2551-1

KHJ長野県「らい鳥の会」（唐澤 秀明）☎080-3433-4904
〒396-0026 伊那市西町6022-3 城南町市営住宅C210

KHJ町田家族会（氏家和子）
〒195-0063　町田市津野田町3577-3
☎042-810-3553（上野享二）

KHJ横浜ばらの会（鈴木恵美子）
〒232-0002　横浜市南区三春台139－18
TEL 090-5764-3366　☎&Fax 045-253-3107

東海ブロック（5支部）

NPO法人なでしこの会（大脇正徳）
〒467-0825　名古屋市瑞穂区柳ヶ枝1-22-7
☎090-4195-2674　☎&Fax 052-882-1119

みえオレンジの会（堀部 尚之）　☎090-6469-5783
〒513-0801　三重県鈴鹿市神戸六丁目6-28

NPO法人オレンジの会（山田孝介）☎&Fax 052-459-5116〒453-0015 名古屋市中村区椿町19-7 ﾁｻﾝﾏﾝｼｮﾝ椿町304

豊田大地の会（土田 芳次）〒470-1211 豊田市畝部東町上梅ノ木12
☎0565-21-0177

NPO法人てくてく（山本洋見）☎053-442-6365
〒432-8054 静岡県浜松市南区田尻町208-2　☎090-1416-6224

北陸ブロック（7支部）

NPO法人KHJにいがた「秋桜の会」（三膳克弥）
〒950-0167　新潟県新潟市江南区五月町1-2-9
☎090-8873-4453　☎&Fax 025-382-6912

KHJ長岡フェニックス（大矢哲裕）
〒940-0082 新潟県長岡市千歳1-3-42
☎0258-38-5001 Fax 0258-38-5002　ながおか心のクリニック内

KHJ北陸会（所田澄子）
〒920-0813 石川県金沢市御所町丑57　☎&Fax 076-252-4856

とやま大地の会（島田 朋子）☎080-3746-2204
〒939-8044 富山市大田南179-8

KHJ福井県すいせんの会（近藤 茂樹）☎&Fax 0776-34-1470
〒918-8057 福井県加茂河原1-5-10　携帯090-9442-5859

KHJはぁとぴあ家族会（高和 洋子）☎&Fax 0766-86-3891
〒933-0235 射水市海老江練合169-32 携帯090-2035-3116

KHJ石川県南加賀支部 いまここ親の会（林昌則）☎070-5633-2667
〒922-0112 加賀市山中温泉西桂木町ヌ26 たんぽぽの家

近畿ブロック（6支部）

NPO法人京都オレンジの会（小島 悠佑）
〒605-0028 京都市東山区三条通大橋東分木町74-3
東山三条ﾗｲﾌｽﾃｰｼｮﾝ　☎&Fax 075-752-0289

NPO法人大阪虹の会（前川　実）☎&FAX 072-265-2021
〒592-0011　高石市加茂1-13-26

NPO法人KHJ「つばさの会大阪」（大塚　洋）
〒573-0027　枚方市大垣内町1-3-1 ﾏｲﾝﾄﾞﾋﾞﾙ4F
☎090-4308-4259　☎072-844-2423

KHJ情報センターふきのとう姫路（櫛橋行雄）
〒670-0896　兵庫県姫路市上大野1-11-6
FAX 079-224-5259　☎090-8378-8032

兵庫県宍粟支部　ひまわりの家 家族会（松本 むつみ）
〒671-2552 兵庫県宍粟市山崎町段194-1 ☎0790-65-9205

私たちの会を応援してくださる賛助会員を募集しています

当会では、ひきこもりを抱えたご家族が孤立しないよう、全国の家族会と連携し、行政に働きかけながら、よりよい支援の実現を目指しています。その活動資金の多くは、皆様からの温かいご支援で成り立っております。是非、私たちの会にご協力をお願いできれば幸いです。

お振込先
ゆうちょ銀行：支店名（他金融機関からの場合）〇一九（ゼロイチキュウ）
口座記号 00110-6　口座番号 708246
加入者名：NPO法人KHJ親の会本部

KHJ奈良県わかくさの会（須知　晴美）☎090-2040-3339
〒610-0361 京都府京田辺市河原東久保田3-12-405

中国ブロック（5支部）

KHJ岡山きびの会（川島　炫三）　☎090-4653-2554
〒708-0821 岡山県津山市野介代526-30 Fax 0868-23-3294

KHJ福山「ばらの会」（中村 友紀）　☎090-4655-3358
〒720-0031　福山市西町1-1-1 リム・ふくやま9階

KHJ山口県「きらら会」（上田 十太）☎&Fax 0837-22-5495
〒759-4102　長門市西深川2850-3

KHJ広島県もみじの会（藤岡 清人）☎082-942-3160
〒733-0002 広島市西区楠木町一丁目8-11（NPO法人CROSS内）

四国ブロック（4支部）

NPO法人KHJ香川県オリーブの会
〒760-0043 香川県高松市今新町4－20　☎087-802-2568

KHJ法人徳島県「つばめの会」（高橋浩爾）
〒770-0847　徳島市幸町3－33 徳島インマヌエル教会内
☎090-1325-2740　☎&Fax 0883-24-0507

KHJ高知県「やいろ鳥の会」（坂本勲）
〒781-8131　高知県高知市一宮しなね1丁目14-10-1
☎090-3184-8109　Fax 088-862-0740

KHJ愛媛県こまどりの会（武田邦寛）
〒791-8012 愛媛県松山市姫原2丁目7-33 ｻﾝﾄﾉｰﾙ姫原505
☎090-7578-4214　Fax 089-923-3367

九州・沖縄ブロック（7支部）

KHJ福岡県「楠の会」（吉村文恵）
〒810-0016　福岡市中央区平和3丁目13-6-104 亀田洋方
☎090-8222-7403　☎&Fax 092-731-3091

NPO法人熊本ブランチ（武井敬蔵）
〒860-0072　熊本市花園7-2435-12
☎096-322-3548　Fax 096-322-3787

KHJ熊本県「りんどうの会」（事務局）
〒869-0623　熊本県宇城市小川町川尻390-2
電話　090-5388-9874

KHJみやざき「楠の会」（植田美紀子）
〒880-0944　宮崎市江南4-9-9　植田方
☎090-9603-8780　☎&Fax 0985-53-2666

KHJ大分県「大分ステップの会」（松本太郎）
〒879-5102 由布市湯布院町川上3604-14
☎090-1163-8582　☎&Fax 0977-84-4310

KHJ鹿児島県楠の会（吉留 純隆）　☎090-4988-6961
〒896-0078 鹿児島県いちき串木野市生福10504-3

KHJ沖縄「てぃんさぐぬ花の会」（平良玲奈）
〒902-0072　沖縄県那覇市銘苅2-3-1 なは市民活動支援センター内
☎070-5277-2036（代表）

KHJ石垣島ピパーチの会（町田弘樹）
〒907-0022 沖縄県石垣市大川213-1 3F
☎&Fax　0980-87-0146